

2012年度 第2回資源・リサイクル小委員会 議事録

日 時：2012年12月20日（木） 12:30～13:00

場 所：（市ヶ谷）九段校舎3階遠隔会議室、（多摩）総合棟4階第三会議室C（※遠隔会議）

出席者：

立石（学務部学部事務課）、濱田（多摩事務部総務課）、小松（学生センター市ヶ谷学生生活課）
佐藤（学生センター多摩学生生活課）、秋山（学務部学部事務課）、中島（学務部学部事務課）、
渋沢（学生センター市ヶ谷学生生活課）
鈴木（環境センター）

欠席者：江原（学務部学部事務課）、田川（事業室環境保全課）

報告事項

1. 市ヶ谷・多摩ごみ分別体験について

市ヶ谷・多摩キャンパスで行った「ゴミ分別体験」の概要を紹介。

- ・市ヶ谷キャンパス…10月12日実施、参加者（学生・2年目職員）13名。
- ・多摩キャンパス…9月27日実施、参加者（学生・2年目職員）14名。

市ヶ谷キャンパス担当の鈴木オブザーバーより、参加者が大変熱心に分別作業にあたったこと、分別されずに捨てられているごみの量に驚嘆していたこと、分別の重要性を体感するよい機会になったこと等、紹介があった。

多摩キャンパス担当の濱田委員からは、分別指導にあたった清掃委託業者がクイズ形式での説明を行うなど、参加者の理解を促す工夫を凝らした体験となり、参加者は楽しみながら分別の必要性を実感していた旨、紹介があった。

2. 省資源・廃棄抑制の推進について

○学祭における廃棄物について

【市ヶ谷キャンパス】

渋沢委員より、市ヶ谷キャンパスの学祭における廃棄物の状況等について以下の説明があった。

- ・学祭前に『Kompas』84号(10月25日発行)紙上でごみの分別等の周知を行ったこと。
- ・実行委員会が中心となって、積極的にごみ分別・放置防止等への取り組みを行ったこと。
- ・今年度から全面飲酒禁止としたこともあり、例年に比して廃棄物の量がかなり減ったこと。特に屋台材等に使われる木材を、前回の学祭終了後には4tトラック2台で回収したが、今回は1台で対応できたこと。
- ・ごみのポイ捨て・放置も格段に減少したこと、
- ・今回から「キャンパス油田」という試みを行い廃油の回収を行ったところ、一斗缶で約4缶の廃油を回収できた旨説明があったこと。

【多摩キャンパス】

佐藤委員より、多摩キャンパスの学祭での廃棄物の状況について以下の説明があった。

- ・環境サークルが中心となって積極的なごみの回収、分別を展開したこと。
- ・特に使用済割箸を数多く回収できたこと。
- ・学祭実行委員会主導で、屋台の材料として段ボールを指定したこと、それにより木材の使用が大幅に減り、再利用可能な段ボールを多く回収できたこと。

なお、鈴木アドバイザーより、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ 2012」に多摩キャンパスの環境サークル H.E.L.P が出展しており、活動報告を配布していたが、その文章のなかで、多摩の学祭のごみ分別基準を、町田市（多摩キャンパス所在地）の基準で行っていた、大学のごみ分別基準が周知されていないのではないかとの指摘があった。今後は自治体ではなく、本学の基準に沿った分別を行うよう要請があった。佐藤委員からは、次年度の実行委員会との打合せ時に学生に周知する旨回答があった。

○その他

堀内委員より、身近な取り組み例として、テプラの使用済カートリッジの回収（販売元のキングジム社でリユース可能）を推奨・周知しているとの紹介があった。（なお市ヶ谷キャンパスでは5年ほど前から実施しているとの紹介があった。）

秋山委員からは、コピー機の「トナーセーブ」機能の試行利用をはじめた旨紹介があった。

このような小さなこと、身近なことから取り組んでいく姿勢が大切であるという意識が改めて共有された。

協議事項

1. 2013～2015 年度小委員会環境目標について

本年7月に小委員会で作成した2013～2015年度の「省資源の推進に関する事項」の環境目標案（2012年度の実績を基準値とし、2013年度は-1%減、2014年度は-2%減、2015年度は-3%減とする）について、修正の有無の再確認を行った。結果、原案どおりとすることが確認された。

以 上